

「夢のようです」

プレーオフ制し初優勝

《九州女子シニア選手権》

4 オーバー 76

亀井 文予（49歳、武雄・嬉野）



初めての経験となるプレーオフ。相手は3年前の同競技優勝者・高橋圭子（トライアルWAKAMIYA）。九州ではこのクラスを代表する選手である。1ホール目は18番ロング（452ヤード）。第2打まではほぼ互角。第3打が分岐点となる。先に打った高橋はグリーン手前のバンカーにつかまる。対する亀井はアゲンストの風の中、残り90ヤードを48度でピン左2・5mにつけた。追い詰められた高橋の第4打はピン奥のカラーに。パーパットも外れ、2パットでパ

一とした亀井が微笑んだ。

「夢のようです。私はイケイケの方じゃないので、プレーオフになった時はドキドキして『いやだ、いやだ』と思っていました。(第3打は) しっかり打てば、いいところに乗ると思って打ちました」。

練習ラウンドで若松GCには6度足を運んだ。「いいスコアは出なかったけど、嫌なイメージはなく、好きなコース」と言うだけあってコースとの相性は良く、結果的には最高の結果につながった。プレーオフ前の18ホールは1バーディー、5ボギーの76。大きな乱れはなかった。

生まれは佐賀県大町町。小中学校時代にはソフトボールで汗を流し、中学のポジションは右投げの投手。ゴルフは武雄GCのフロントに勤務していた27歳の時に始めた。「お客の気持ちが少しでも分かるように」とクラブを握った。競技ゴルフに夢中になってからは7年ほどが経つ。13年前に結婚。ご主人の敏樹さんは文予さんと同じく武雄・嬉野CC所属でハンディ「0」の腕前だ。2年前の九州ミッドアマ(大村湾)では惜しくもプレーオフで敗れ、2位タイに終わった。ご主人はプレーオフで泣いたが、奥さんは笑った。

そのご主人は武雄市内で「ゴルフクラフト・レスキュー」というクラブ工房を営む。亀井のクラブのフィッティングなども全てご主人任せ。店を手伝うことにより、クラブの調整や交換などについても随分と理解するようになった。今回の初優勝はご主人のバックアップのたまものである。



全国大会は2年前の「JGA杯J-sys ゴルフ選手権」(石川・片山津)で優勝。「いいコースを回れるし、全国にはいい人がいっぱいいて、和気あいあい楽しくやれる。全国の舞台でどれくらいの実力を出せるか楽しみ。(来年の)シードを取れるように頑張りたい」と日本女子シニアではベスト10を目標にしている。

【写真はプレーオフ後にカートに乗り、手を振って喜びを表す亀井(左)と惜しくも2位となった高橋(右)】

◆プレーオフで敗れた高橋圭子「プレーオフは初めてだったけど、面白かった。アイアンは替えたばかりで今回が(試合で)3回目。少し不安があった。(バンカーにつかまった第3打は)大きめのクラブを持ったけど、インパクトの時に緩んでしまった」

◆ミッドアマ、シニア、グランドシニアと女子の全国3大会に出場する谷川美帆(60歳、佐世保)「こんな機会はめったにないので3つ行けたらいいなあ、とは思っていました。楽しみです。(旅費の)貯金をしないとはいけません。今日のゴルフは前半は良かったけど、後半のインでスコアを追うようになって崩れた。思い切り振れなくなりました。課題が残りました」

《若松GC》

